

平成 30 年 10 月 26 日(金)18:30 から市立大森病院に於いて、業務の効率化「工程管理の取組」をテーマに、今年度第 2 回県南支部学術研修会が開催されました。市立横手病院の郡山会員に座長を務めていただき、市立田沢湖病院、市立横手病院、市立大森病院の3施設から発表していただきました。会員 13 名、賛助会員 1 名の参加をいただいております。

市立田沢湖病院の齊藤会員からは、検査を進める過程での患者さんへの対応方法や、紙ベースの照射録での運用に関しての報告がありました。検査は件数的にも内容的にも十分時間を取りながら進めることができる環境にあり、安全と安心をモットーに当日の全検査オーダーを事前に確認することで患者さんへは移動による負担がかからないよう配慮しているそうです。紙ベースでの照射録では、医療訴訟の経験を踏まえ、患者さんの状態や検査内容の詳細を医師と技師とで色分けをして記入することで、後で誰によるものか確認しやすいようにしているとのことでした。

市立横手病院の細谷会員からは、患者さんの検査の待ち時間の解消並びに検査効率をあげるための報告がありました。一般撮影では1吊用の更衣室を2吊が同時に使用できるように改装して、更衣時間の短縮が図れるように工夫しておりました。しかし、プライバシーの問題もあり患者確認や検査説明などは1人の時に行わざるを得ないとのことでした。また、CT 検査では隣接する透視室が空いている場合は、ルート確保用の場所として使用し、時間のロスを最小限にとどめているそうです。最後に、パソコン上でファイルの管理が簡単にできるフリーソフトを使っての使用経験の紹介がありました。操作方法も分かりやすく即実践してみたい内容でした。

大森病院の伊藤会員からは、RISシステムについての報告がありました。技師間の情報共有のために活用している患者コメント欄の使用により、MRI 禁忌の患者さんの検査を未然に防ぐことができた事例を紹介していただきました。医療事故防止に有用ではあるが、字数に制限がありコメント内容をどう記載するのかといったルール付けが必要であるとのことでした。現在 RIS 画面上でしか見ることが出来ず、電子カルテ上で共有して見られるように希望しておりました。

ルーチン化されている事を再度見直し、ひと手間加えることで業務の負担軽減を図り、安全かつ確実性を備えた取り組みについてご紹介していただきました。平日開催での限られた時間ではありましたが、今後の業務の中において参考にすべき点が多い実りある研修会でした。

最後に、市立大森病院の皆さんには会場の準備をはじめとして、研修会終了後の施設見学では遅い時間帯にもかかわらず、親身に対応していただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(記 加羽 馨)

